

地域交流企画（小学校理科クラブ）実施しました。

日時；令和5年1月31日（火） 14時45分～15時30分

場所；厚木市立戸室小学校

児童；約30名（小学4年生～6年生）

内容；顕微鏡を使って植物をみてみよう。

昨年度は新型コロナウイルスの影響で実施できませんでしたが、今年度は実施できました。本校の生徒（2年生5名）が戸室小学校のクラブ活動の講師役として行ってきました。

また、講師役の生徒たちは、学校のヴェリタスⅡの課題研究で、『音読による記憶の定着』について研究しているチームなので、顕微鏡の観察の合間に、児童に音読実験の協力をしてもらってデータを集めていました。今回の5名の生徒は、来月3月に福井県で実施される「福井県合同課題研究発表会」に参加します。



授業前に進行を確認している様子。



自分たちで用意したプリントの文章に、少し難しい漢字が含まれていたため、急遽黒板にふりがなを書いています。





左；音読のプリントを見ている様子



右；観察した試料（オオカナダモ）



左；最後は理科クラブの部長さんが、
締めあいさつをしてくれました。

【引率教員の感想（杉原）】

戸室小学校は、毎年秋に厚木高校の校庭に校外学習の一環で、『どんぐり拾い』に来てくれます。徒歩圏内で、放課後クラブも充実しており、理科クラブは約 30 名も活動しています。厚高生が何かお手伝いできないかな、と考えていたところ、SSHの取り組みをしている厚高生なら理科が得意、ということで、戸室小の教頭先生と企画を立ち上げることができました。当校の5名の様子を見ていると、小学生と理科を通してふれあい、会話をしており、ほほえましい光景でした。漢字のふりがなを黒板に書いて説明したり、児童たちに伝わるように話しかけたりして、一生懸命頑張っていました。

※校外の企画では厚高生に自主性を持たすために、いつもは私はほとんどサポートしませんが、今回は小学生が 30 名だったので、顕微鏡の操作やピント合わせなど、安全に実験ができるように動いていたので、顕微鏡を使っている児童の様子や、音読実験をしている様子の写真を撮って記録に残すことができました。葉緑体の観察までできて、小学生たちがサイエンスを身近に感じてもらえたのでよかったです。